

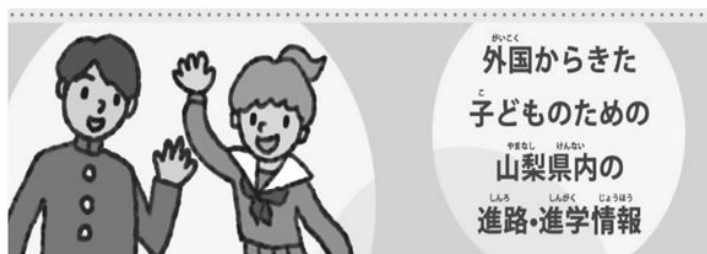
「やまなし子どもネット」と「多言語による進路・進学ガイダンス」について

原田かおり（やまなし子ども学習支援連絡協議会）

●「やまなし子どもネット」について

「やまなし子どもネット」は、山梨県立大学地域研究交流センターのプロジェクトの一環として、2014年に開設した進路・進学情報サイトである。開設に当たっては、地域の外国人住民、日本人住民および、やまなし子ども学習支援連絡協議会が協力した。サイトでは山梨に住む外国人保護者とその子どもたち、その支援活動をしている機関・団体・個人に、進路・進学情報を日本語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、英語の7言語で提供している。内容は、以下の4つである。

1. 保育所と幼稚園
2. 小学校・中学校の生活について
3. 高校への進学について
4. 大学への進学について



<http://kodomonet.sakura.ne.jp>

外国人保護者とその子どもたち、支援者に幅広く活用してもらいたいと考え開設したサイトであるが、利用者数の伸び、情報の更新、サイトの維持などが課題として残された。今後も周知活動を継続しつつ、活用方法を探っていく。

●「多言語による進路・進学ガイダンス」について

2015年、山梨県立大学地域研究交流センターのプロジェクトとして、山梨県で初めて多言語による進路・進学ガイダンスを開催し、これまで計6回のガイダンスを行ってきた。参加者は、12か国、述べ156名（外国につながる者122名、見学者34名）である。

内容は、現役の小中学校教員による説明会（高校進学の意義、山梨県の特別入試、県内の高校受験制度と合否等について）、個別相談会である。また、子どもたちが身近なロールモデルと出会うことを目的として、2017年には「高校ブース」、2018年7月には「大学生・専門学校生との交流の場」を設けた。参加者からは、「公立と私立の違いがわかった」、「自分の子どもが高校に進学できることがわかった」、「面接試験の大切さがわかった」等の意見が挙げられ、ガイダンス開催は有用だと考えられる。

しかし、ガイダンス継続のための人的・経済的サポートの確保、参加者数が増加しない点、潜在的な層へのアプローチは例年課題となっている。今後もガイダンスを意義のある形で継続させていくために、他地域での取り組みに学び、協力者を増やし、連携、継続、発信していくことが必要であると考えられる。